

装具装着補助具の作製が トイレ動作の再獲得に繋がった症例

医療法人 誠和会 倉敷記念病院 リハビリテーション部
作業療法士 西口萌

「第34回岡山県作業療法学会(令和4年3月13日 WEB開催)にて発表」

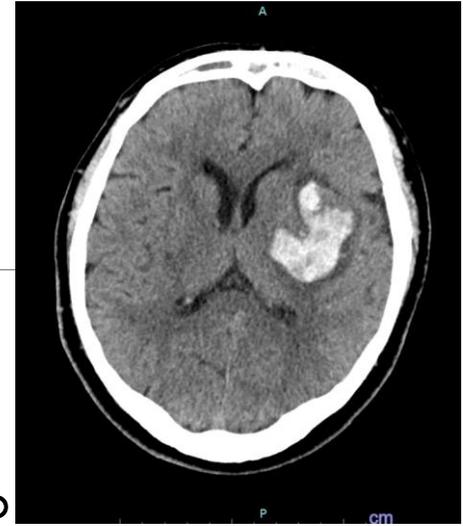
第34回岡山県作業療法学会
COI(利益相反)開示
筆頭演者:西口 萌

本演題発表に関連して、開示すべきCOI
関連にある企業などはありません。

はじめに

短下肢装具が特殊な形状のため自己装着が困難な症例に対し、装具装着補助具(以下、補助具)を作製したことで短時間で装着が可能となり、トイレ動作が自立となった症例を経験したので報告する。

症例紹介



50代 男性

【現病歴】 X年Y月、意識レベル低下しA病院救急搬送。
左被殻出血と診断。同日、開頭血種除去術施行。
12病日目に当院回復期リハビリテーション病棟へ転院。

【既往歴】 ポリオにより両足尖足拘縮

【家族歴】 母と2人暮らし

【病前生活】 独歩、ADL自立、事務作業系の仕事に勤務していた。

作業療法評価(74病日目)

評価項目	
デマンド	母に手をかけさせたくない。 トイレに一人で行けるようになりたい。
BRS	I / I / III
右上下肢感覚	表在、深部感覚中等度鈍麻
mFIM	45点 (トイレ動作:2点、移乗:3点、車椅子移動:4点)
cFIM	33点

治療経過

装具なしでは立位保持困難。
トイレ動作にも介助を要していた。



92病日目に短下肢装具(図1)完成。

尖足により、足底の補高等を行った特殊な形状であった為、装具の自己装着が困難であった。

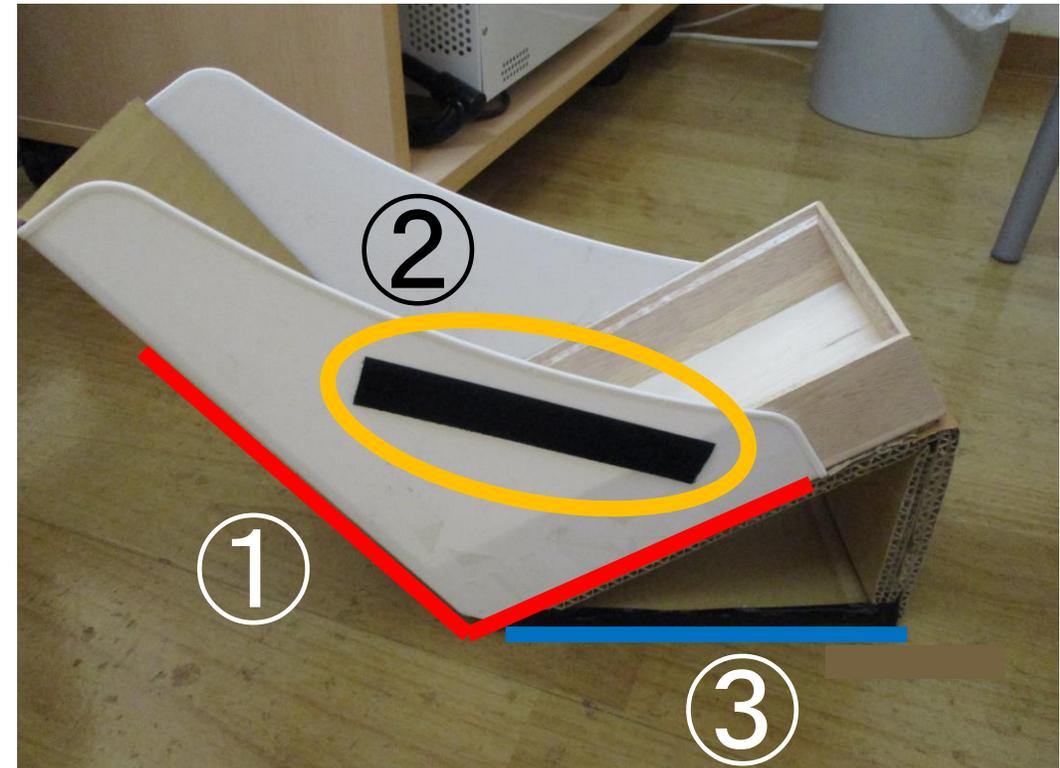


(図1)

治療経過

自己装着を可能にする補助具を考案。

- ① 足部を入れやすい角度で保持できる
- ② 足部のベルクロが外側で固定できる
- ③ 床面に滑り止めを付けた



治療経過

補助具を使用した装着動作は、当初5分の時間を要していた。



さらなる時間短縮を図るため、素早く確実に出来るように練習を繰り返し行った。

また装具装着下でのトイレ動作の確実性、安定性を向上させるため自宅を想定した環境で練習した。



※学会発表当日
は動画にて説明

装具を箱の中に入れて使用します。
ベルクロをマジックテープに張り付けて、外側に固定します。

最終評価(152病日目)

評価項目	
BRS	I / I / III
右上下肢感覚	表在、深部感覚中等度鈍麻
mFIM	45点→71点 (トイレ動作: 2点→6点、移乗: 3点→6点、 車椅子移動: 4点→7点)
cFIM	33点→34点

結果

装具は補助具を使用し、約3分での自己装着が可能となり、装具装着下で一人で棟内トイレに行けるようになった。

症例の「母に手をかけさせたくない」という
デマンドを達成できた。

考察

本症例は脳出血と尖足の影響もあり、装具なしではトイレ動作が不安定であった。

患側足部を装具固定する事により立位時の重心動揺が減少する。(星文彦, 1997)



トイレ内動作が自立となるためには、装具装着下でのトイレ動作が必要であると考えた。

終わりに

153病日目に自宅退院。

小規模多機能施設を利用。

自宅のトイレは住宅改修(手すり、引き戸に変更、段差解消)を行い、動作自立で行えている。

結語

- 装具の自己装着が困難な症例に対し、補助具を作製した。
- 補助具を使用した装具装着練習により、装具の自己装着が可能となった。
- 装具装着下でのトイレ内動作が自立で行えるようになり、デマンドが達成できた。